

令和3年度中学校武道授業（空手道）指導法研究事業



令和3年度中学校武道授業（空手道）指導法研究事業（主催＝日本武道館、全日本空手道連盟、日本武道協議会、後援＝スポーツ庁）が令和4年2月19日、研究者7名、研究協力者3名、連盟事務局2名の参加を以て、オンライン会議システム（ZOOM）にて実施された。

同事業は平成24年度から完全実施された中学校保健体育科における武道授業の充実へ向け、新学習指導要領に準拠し、年間8～10時間の授業時間想定で、各武道種目の特性を踏まえた、教育効果の上がる指導計画、指導内容、指導法、評価等について研究討議するものである。

開講式では、はじめに里見和洋公益財団法人全日本空手道連盟専務理事、吉川英夫公益財団法人日本武道館理事・事務局長の主催者挨拶の後、研究者を代表して、小山正辰^{まさし}研究者が挨拶を述べた。

開講式後、研究協議(1)「特別支援学校用空手道授業テキストの活用方法」では、冒頭に全日本空手道連盟事務局から、新学習指導要領が改訂され、武道が明記されたものの、授業での実施率は高いものとはいえない。しかし、特別支援学校における空手道の採用数が増加傾向にあることから、特別支援学校用空手道授業テキストを作成する必要があると説明があった。

その後、佐藤賢一研究協力者から、他の武道にはない空手道の魅力や可能性を取り入れたというパプリカラテ（パプリカという曲に合わせて空手の動作を行うもの）を使った授業の発表がされた。佐藤研究者からは、生徒たちが反復練習と気付かずに楽しく活動できていたと報告された。他の研究者からは、十分な運動量が確保できる他、小学校など幅広く実施できるのではないかといった意見があった。

研究協議(2)「創作組手の指導法」では、互いに距離を取り、接触しないで行う『エア組手』を中心に協議をした。これは、基本形1～3の学習後、その中から攻防を3つ程度選んで構成するものである。研究者からは、子どもの想像力・思考力を高める良い内容であるとの意見があった。

研究協議(3)「自由視点映像を用いた基本形教材の活用方法」では、GIGAスクール構想により、各生徒に配布されたタブレットで活用できる全空連作成の動画教材コンテンツを、より教育効果を高める内容にするための協議がなされた。

その後、次年度の本事業の日程・内容について協議した後、閉講式へと移った。

閉講式では、研究者を代表して小山研究者が講評を、高橋昇全日本空手道連盟事務局長、中島昭博日本武道館振興課長が主催者挨拶を述べ、全日程を終了した。